

学習指導要領		スタンダード「基礎」
A 話すこと・聞くこと	ア 話題について様々な角度から検討して自分の考えをもち、根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して意見を述べること。	<p>調べた内容を参考にして自分の考えをもち、根拠に基づいて話すことができる。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会問題などについて、調べた内容を参考にして自分の考えをもつことができる。</li> <li>・根拠を示しながら自分の考えを話すことができる。</li> </ul>
	イ 目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりすること。	<p>目的や場に応じて、分かりやすく適切な言葉で話したり、メモを取りながら聞き取ったりすることができる。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己紹介のスピーチなどで、何のために誰に向かって話すのかを考えて、言葉を選んで話すことができる。</li> <li>・自己紹介のスピーチなどで、相手の話をメモを取りながら聞くことができる。</li> </ul>
	ウ 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合うこと。	<p>相手の考えを受け止め、自分の考えを説明し、円滑に話し合うことができる。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループの話し合いなどで、相手と自分の共通点や相違点をとらえ、自分の考えに生かすことができる。</li> <li>・司会者や提案者を立て、言葉遣いを考えて話し合うことができる。</li> </ul>
エ 話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、自分の話し方や言葉遣いに役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。	<p>自己評価や相互評価を通して、自分の話し方や言葉遣いを見直し、自分とは異なるものの見方、感じ方、考え方に気付くことができる。</p>	

スタンダード「応用」	スタンダード「発展」
<p>幅広く調べた内容を整理して自分の考えをもち、客観的な根拠に基づいて話すことができる。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会問題などについて、調べたり取材したりした内容を基に、自分の考えをもつことができる。</li> <li>・論拠に基づき、反論を想定しながら自分の考えを話すことができる。</li> </ul> <p>目的や場に応じて、資料などを用いながら、分かりやすく適切な言葉で話したり、要点を押さえて聞き取ったりすることができる。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・報告や発表などで、何のために誰に向かって話すのかを考えて、必要に応じて資料などを用いながら言葉を選んで話すことができる。</li> <li>・報告や発表などで、要点を押さえながら、話し手の主張を聞き取ることができる。</li> </ul> <p>相手の立場を理解し、相手の考えを踏まえて自分の考えを説明し、司会者や提案者などの役割に応じて円滑に話し合うことができる。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ討議などで、相手と自分の考えの共通点や相違点をとらえ、相手の考えの根拠を理解し、自分の考えに生かすことができる。</li> <li>・司会者や提案者などの役割に応じて、話し合いが円滑に進むように、話の構成や展開、言葉遣いなどを考えて話すことができる。</li> </ul> <p>自己評価や相互評価を自分の話し方や言葉遣いに生かし、話し手の多様な思いや考えに気付くことができる。</p>	<p>幅広く調べた内容を検討して自分の考えをもち、客観的な根拠に基づいて論理的に話すことができる。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会問題などについて、調べたり取材したりした内容を様々な角度から検討して、自分の考えをもつことができる。</li> <li>・多角的な視点から、論拠に基づいて自分の考えを話すことができる。</li> </ul> <p>目的や場に応じて、資料や機器などを適切に用いながら、分かりやすく効果的な言葉で話したり、主題を押さえて聞き取ったりすることができる。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・報告や発表などで、何のために誰に向かって話すのかを考えて、必要に応じて資料や機器などを用いたり、効果的に伝えるように言葉を選んで話したりすることができる。</li> <li>・報告や発表などで、話し手の主張や、聞き手が必要なことを、間違いなく、過不足なく聞き取ることができる。</li> </ul> <p>相手の立場を理解し、相手の考えを生かしながら自分の考えを説明し、司会者や提案者などの役割に応じて円滑に話し合うことができる。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループやクラスの討議などで、相手の主張について、その根拠の適否などを確かめ、自分の考えに生かすことができる。</li> <li>・司会者や提案者などの役割に応じて、話し合いが効果的に展開するように、話の構成や展開、言葉遣いなどを工夫して話すことができる。また、状況に応じて、これまでの経緯を振り返ったり、これからの展望を考えたりしながら話し合うことができる。</li> </ul> <p>自己評価や相互評価を自分の話し方や言葉遣いに生かし、話し手の多様な思いや考えに触れ、その意義や価値に気付き、自身の考えを広げ、深めることができる。</p>

学習指導要領		スタンダード「基礎」
B 書くこと	ア 相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書くこと。	<p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手や場に応じた語句の使い方、態度、論の構成など、自己や他者の良い点・直すべき点を指摘することができる。</li> </ul> <p>誰に向かって何のために書くのかを考え、題材や文章の形態にふさわしい文体や語句を用いて書くことができる。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・与えられた題材に即して、自分が体験したことや考えたこと、身の回りのことなどから、相手や目的に応じた材料を収集することができる。</li> <li>・常体と敬体を区別し、どちらかに統一することができる。</li> <li>・語句や言い回しの重複を避けることができる。</li> </ul>
	イ 論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめること。	<p>論理の構成や展開の仕方について知り、自分の考えをその根拠と結び付けて文章にすることができる。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「序論 - 本論 - 結論」を意識して600字程度の文章を書くことができる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事実・意見・引用を区別し、根拠を示しながら自分の考えを明確にすることができる。</li> </ul>
	ウ 対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の工夫を考えて書くこと。	<p>説明や描写の違いなどを知り、相手や目的を意識した表現の工夫で書くことができる。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事実や事柄などを具体的に説明したり、手順や理由などを順序立てて説明したりすることができる。</li> <li>・情景や人物、心情などを、読み手が想像しやすいように描写することができる。</li> </ul>

スタンダード「応用」	スタンダード「発展」
<p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手や目的、場に応じた言葉遣い、態度、論の構成・展開の仕方など、自己や他者の良い点・直すべき点を指摘し、それぞれに込められた思いや考えに気付くことができる。</li> </ul> <p>誰に向かって何のために書くのかを考え、自らその目的に応じた題材や文章の形態を選び、それにふさわしい文体や語句を用いて書くことができる。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身の体験や考えたこと、身の回りのことなどから目的に応じて題材を選び、材料を収集したり選択したりすることができる。</li> <li>・常体と敬体を相手や目的に応じて使い分けることができる。</li> <li>・複数の語句や言い回しの中から題材や文章の形態にふさわしいものを選択することができる。</li> </ul> <p>論理の構成や展開の仕方について理解し、論拠に基づいて自分の考えを文章にすることができる。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「序論 - 本論 - 結論」、「頭括型・尾括型・双括型」などの文章の組み立て方や進め方を取り入れて、600～800字程度の文章を書くことができる。</li> <li>・反論を想定しながら、論拠に基づいて自分の考えをまとめることができる。</li> </ul> <p>説明や描写を使い分けるなど、相手や目的、場に応じた適切な表現の工夫で書くことができる。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事実や事柄などを正確に説明したり、手順や理由などを論理的に説明したりすることができる。</li> <li>・情景や人物、心情などを、表現技法などを用いて、読み手が想像しやすいように描写することができる。</li> </ul>	<p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手や目的、場に応じた用語や引例、態度、論の構成、展開の着実性や意外性など、自己や他者の良い点・直すべき点を指摘し、それぞれに込められた思いや考えとその意義・価値に気付くことができる。</li> </ul> <p>誰に向かって何のために書くのかを考え、自らその目的に応じた題材や文章の形態を選び、それにふさわしい文体や語句を工夫して書くことができる。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら目的に応じて題材を選び、自分自身の体験や考えたことに加え、読書や調査および観察などで得られた材料を選択することができる。</li> <li>・常体と敬体を相手や目的に応じ、効果を考えて使い分けすることができる。</li> <li>・文章の形態や文体を考え、語句や言い回しを工夫することができる。</li> </ul> <p>論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを説得力のある文章にまとめることができる。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「序論 - 本論 - 結論」、「現状認識 - 問題提起 - 解決 - 結論 - 展望」、「頭括型・尾括型・双括型」などの文章の組み立てや進め方を取り入れて、与えられた条件に応じた文章を書くことができる。</li> <li>・客観性や信頼性の高い資料を用いるなどして、多角的な視点から、論拠に基づいて自分の考えをまとめることができる。</li> </ul> <p>説明や描写を効果的に使い分けるなど、相手や目的、場に応じた適切な表現の工夫で書くことができる。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事実や事柄などを正確に説明したり、手順や理由などを論理的かつ的確に説明したりすることができる。</li> <li>・情景や人物、心情などを、表現方法を工夫して、読み手がありありと想像できるように描写することができる。</li> </ul>

学習指導要領		スタンダード「基礎」
C 読 む こ と	<p>エ 優れた表現に接してその条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。</p> <p>ア 文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。</p>	<p>自他の文章への評価を通して、自分の表現を見直し、自分とは異なるものの見方、感じ方、考え方に気付くことができる。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・構成の仕方や語句の用い方などの良い点・直すべき点を指摘することができる。</li> </ul> <p>【現代文】</p> <p>文章の形態（小説・評論・韻文など）における表現の特色を意識しながら読むことができる。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・比喩法（直喩・隠喩・擬人法）を知り、文章中の比喩を指摘することができる。</li> <li>・小説の表現や韻文のリズムを、音読を通して味わうことができる。</li> </ul> <p>【古典】</p> <p>比較的短く平易な文章について、文章の形態の違いを知り、表現技法や語句の使い方に注意して読むことができる。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <p>古文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的仮名遣いに注意して音読することができる。</li> <li>・物語・随筆・日記・和歌などのジャンルの違いを意識して、それぞれの作品を読むことができる。</li> </ul> <p>漢文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢文の基本的なきまり（訓点・再読文字・置き字・句法など）に従って音読することができる。</li> <li>・詩の形態や押韻を指摘することができる。</li> </ul> <p>【現代文】</p> <p>文脈をとらえ、筆者の考えなどを読み取ったり要約したりすることができる。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章中のキーワードを指摘することができる。</li> </ul>
	<p>イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。</p>	<p>【現代文】</p> <p>文脈をとらえ、筆者の考えなどを読み取ったり要約したりすることができる。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章中のキーワードを指摘することができる。</li> </ul>

スタンダード「応用」	スタンダード「発展」
<p>自他の文章への評価を通して、自分の表現に生かし、書き手の多様な思いや考えに気付くことができる。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発想の豊かさや論の構成・展開の仕方など、良い点・直すべき点を指摘することができる。</li> </ul> <p>【現代文】</p> <p>文章のそれぞれの形態における表現技法や語句の使い方の工夫などに注意しながら読むことができる。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・比喩法を理解し、文章中の比喩について説明できる。</li> <li>・小説の表現や韻文のリズムを、音読・暗唱などを通して味わうことができる。</li> </ul> <p>【古典】</p> <p>量・難易度とも中程度の文章について、文章の形態の違いを理解し、表現技法や語句の使い方の工夫をとらえて読むことができる。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <p>古文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文節や単語など区切りに注意して音読することができる。</li> <li>・物語・随筆・日記・和歌などの違いを理解して、それぞれの作品を読むことができる。</li> </ul> <p>漢文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢文の基本的なきまりに従って音読することができる。</li> <li>・詩の形態や押韻、対句を指摘することができる。</li> </ul> <p>【現代文】</p> <p>文脈をとらえ、語句や表現に注意しながら、筆者の考えなどを読み取ったり、指定された字数で要約したりすることができる。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章中のキーワード、キーセンテンスを筆者の主張との関係で指摘することができる。</li> </ul>	<p>自他の文章への評価を通して、自分の表現を高め、書き手の多様な思いや考えに触れ、その意義や価値に気付くことができる。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み手を意識した用語や引例、論の構成・展開の着実性や意外性など、良い点・直すべき点を指摘することができる。</li> </ul> <p>【現代文】</p> <p>文章のそれぞれの形態における表現技法や語句の使い方の工夫などに注意し、その効果を考えながら読むことができる。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・比喩法を理解し、文章中の比喩とその効果について説明できる。</li> <li>・小説の表現や韻文のリズムを、音読・暗唱・朗読などを通して味わうことができる。</li> </ul> <p>【古典】</p> <p>比較的長く難易度も中程度以上の文章について、文章の形態の違いや特色を理解し、表現技法や語句の使い方の工夫をとらえて読むことができる。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <p>古文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の内容や表現技法を踏まえた音読や朗読ができる。</li> <li>・物語・随筆・日記・和歌などの違いや特質を理解して、それぞれの作品を読むことができる。</li> </ul> <p>漢文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の内容や句法などの表現技法を踏まえた音読や朗読ができる。</li> <li>・詩の形態や押韻を指摘し、対句について説明できる。</li> </ul> <p>【現代文】</p> <p>文脈をとらえ、語句や表現に注意しながら、筆者の考えなどを的確に読み取り、指定された条件に従って要約したり、詳しく説明・解説したりすることができる。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章中のキーワード、キーセンテンスを筆者の主張との関係で説明できる。</li> </ul>

学習指導要領	スタンダード「基礎」
<p>ウ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章中の指示語や接続詞を意識して読むことができる。</li> <li>・筆者の主張と具体例とを区別し、主張を中心に要約することができる。</li> </ul> <p>【古典】 比較的短く平易な文章を、基本的な文語のきまりや訓読のきまりに注意して、傍訳などの助けを得ながら、読み取ることができる。</p> <p>《具体的な設定例》 <b>古文</b> ・基本的な用言・助動詞・敬語、係り結びなどを理解して、文章を読み取ることができる。</p> <p><b>漢文</b> ・訓点や、基本的な再読文字（未、将など）・置き字（於、而など）・句法（否定、使役など）について理解して、文章を読み取ることができる。</p> <p>【現代文】 登場人物を押さえ、行動や性格、心情の変化をとらえることができる。</p> <p>登場人物の心情が情景描写にしばしば反映・象徴されることを理解する。</p> <p>《具体的な設定例》 芥川龍之介『羅生門』などで ・各場面での登場人物の言動や心情を読み取ることができる。</p> <p>・比喩表現などから状況や心情をとらえることができる。</p> <p>【古典】 比較的短く平易な文章の場面や人物を押さえ、誰が、どうしたという流れを読み取ることができる。</p>

スタンダード「応用」	スタンダード「発展」
<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章中の指示語の内容や接続詞の働きを理解して読むことができる。</li> <li>・筆者の主張を抜き出して各段落を要約したり、指定された条件に従って全体を要約したりすることができる。</li> </ul> <p>【古典】 量・難易度とも中程度の文章について、主要な文語のきまりや訓読のきまりに注意しながら、語句や表現に即して読み取ることができる。</p> <p>《具体的な設定例》 <b>古文</b> ・用言・助動詞、基本的な助詞・敬語、係り結び、和歌の修辞などを理解して、文章を読み取ることができる。</p> <p><b>漢文</b> ・訓点や再読文字、基本的な置き字・句法について理解して、文章を読み取ることができる。</p> <p>【現代文】 登場人物の行動や性格、心情の変化、ものの見方、感じ方、考え方をとらえることができる。</p> <p>情景描写から心情を読み取ることができる。</p> <p>《具体的な設定例》 芥川龍之介『羅生門』などで ・登場人物の言動や、心情とその変化を読み取り、説明できる。</p> <p>・比喩表現などから状況や心情をとらえて説明できる。</p> <p>【古典】 量・難易度とも中程度の文章の場面や人物を押さえ、行動や心情を読み取ることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指示語や接続詞に着目して論の展開をとらえることができる。</li> <li>・筆者の主張を抜き出して整理し、分かりやすく並べ直したり、指定された条件に従って要約したりすることができる。</li> <li>・文章中の難解な部分や含蓄のある部分について、詳しく説明・解説することができる。</li> </ul> <p>【古典】 比較的長く難易度も中程度以上の文章について、文語のきまりや訓読のきまりに従って、語句や表現に即して読み取り、内容を説明できる。</p> <p>《具体的な設定例》 <b>古文</b> ・用言・助詞・助動詞、敬語の用法、係り結び、和歌の修辞などを理解して、文章を読み取ることができる。</p> <p><b>漢文</b> ・訓点・再読文字・置き字、主要な句法について理解して、文章を読み取ることができる。</p> <p>【現代文】 登場人物の行動や性格、心情の変化、ものの見方、感じ方、考え方、生き方などを的確にとらえ、人物相互の関係の変容を読み取ることができる。</p> <p>情景描写から心情や物事の起こる予兆などを読み取ることができる。</p> <p>《具体的な設定例》 芥川龍之介『羅生門』などで ・登場人物の言動や、心情の変化とその過程を読み取り、理由を説明できる。</p> <p>・比喩表現などから状況や心情をとらえ、その移り変わりを説明できる。</p> <p>【古典】 比較的長く難易度も中程度以上の文章について、情景や登場人物の行動、心情、生き方などを読み取るとともに、情景描写の中にある心情の反映や象徴、物事の予兆としての表現などに気付くことができる。</p>

学習指導要領	スタンダード「基礎」
<p>工 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。</p> <p>オ 幅広く本や文章を読み、情報を得て用いたり、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしたりすること。</p>	<p>《具体的な設定例》</p> <p>古文</p> <p>『宇治拾遺物語』『児のそら寝』などで</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人物（誰が）場面（いつ、どこで）出来事（何を、どうした）を読み取ることができる。</li> <li>・児が心の中で思った部分を指摘することができる。</li> </ul> <p>漢文</p> <p>李白「静夜思」などで</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人物（誰が）場面（いつ、どこで）出来事（何を、どうした）を読み取ることができる。</li> <li>・作者の心情を理解する。</li> </ul> <p>様々な文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について考えたり、書き手の主張をとらえたりすることができる。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各段落の働きを理解し、段落相互の関係を読み取ることができる。</li> <li>・情景や心情の変化に注意して、作品全体の筋（ストーリー）をとらえることができる。</li> <li>・用いられている文体の効果や、語句の工夫、対比・比喩などの表現技法を指摘することができる。</li> <li>・具体例と意見を区別しながら、書き手の考えの強調点をとらえることができる。</li> </ul> <p>様々な形態・内容・分野の本や文章を読み、そこから得た情報を評価し、自分の考えをもつことができる。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な形態（文学的な文章・論理的文章・実用的な文章など）や、幅広い内容・分野（芸術・社会学・自然科学など）の本や文章を読むことができる。</li> </ul>

スタンダード「応用」	スタンダード「発展」
<p>《具体的な設定例》</p> <p>古文</p> <p>『伊勢物語』『芥川』などで</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人物（行動や心情）情景（場面、状況、風景）出来事（何を、どうした）を読み取ることができる。</li> <li>・和歌に込められた男の心情を理解する。</li> </ul> <p>漢文</p> <p>杜甫「春望」などで</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・描かれた人物、場面、時代や場所、状況、出来事、情景を読み取ることができる。</li> <li>・「白頭搔更短」のような間接的な表現に込められた作者の心情を理解する。</li> </ul> <p>様々な文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について、その効果を指摘したり、書き手の主張や目的をとらえたりすることができる。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各段落の働きを理解し、段落相互の関係を読み取ったり、「序論・本論・結論」などの文章の組み立てを指摘したりすることができる。</li> <li>・情景や心情の変化をたどり、作品全体の筋をとらえて説明できる。</li> <li>・用いられている文体の効果や、語句の工夫、対比・比喩などの表現技法を説明できる。</li> <li>・書き手の主張や意図を読み取ることができる。</li> </ul> <p>様々な形態・内容・分野の本や文章を読み、そこから得た情報を評価し、目的に応じて活用したり、自分の考えを深めたりすることができる。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な形態や幅広い内容・分野の本や文章を、書店や図書館だけでなく、ウェブページなど幅広い方法で入手し、読むことができる。</li> </ul>	<p>《具体的な設定例》</p> <p>古文</p> <p>『伊勢物語』『筒井筒』などで</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・場面ごとの人物の行動や心情などを読み取り、説明できる。</li> <li>・それぞれの和歌に込められた心情を理解し、鑑賞することができる。</li> <li>・男の心情の変化とその理由を説明できる。</li> </ul> <p>漢文</p> <p>陶潜「桃花源記」などで</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人物の行動や心情、場面、時代や場所、状況、出来事、情景などを読み取ることができる。</li> <li>・当時の中国の人々がどのような世界に憧れたかを読み取り、現実との関係を考えることができる。</li> </ul> <p>様々な文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について、その効果や的確性を根拠を明確にして指摘したり、書き手の主張や目的、手法をとらえたりすることができる。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各段落の働きを理解し、段落相互の関係を的確に読み取ったり、「序論・本論・結論」などの文章の組み立てや、「頭括型・尾括型・双括型」などの文章の型を指摘したりすることができる。</li> <li>・情景や心情の変化をたどり、作品全体の筋を的確にとらえて説明できる。</li> <li>・用いられている文体の効果や、語句の工夫、対比・比喩などの表現技法の的確性を根拠を示しながら説明できる。</li> <li>・書き手の主張を読み取り、説明できる。</li> </ul> <p>様々な形態・内容・分野の本や文章を読み、そこから得た情報を評価し、目的に応じて活用したり、自分の考えを深めたりすることができる。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な形態や幅広い内容・分野の本や文章を、書店や図書館だけでなく、ウェブページなど幅広い方法で入手し、読むことができる。</li> </ul>

学習指導要領		スタンダード「基礎」
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	ア 伝統的な言語文化に関する事項 (ア)言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について気付き、伝統的な言語文化への興味・関心を広げること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読んだ本や文章から、必要な情報を読み取り利用することができる。</li> <li>・読んだ文章を評価することを通して、自分とは異なるものの見方、感じ方、考え方に気付くことができる。</li> </ul> <p>日本の伝統的な言語文化について基本的な事柄を知り、また外国の文化の影響に気付くことができる。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和歌の朗詠・贈答の慣習、三大集(万葉・古今・新古今)を知る。</li> <li>・基本的な古典知識(月の異名、十二支など)を知る。</li> <li>・中国の文字や書物の影響のうち基本的なもの(故事成語など)を知る。</li> </ul>
	(イ)文語のきまり、訓読のきまりなどを理解すること。	<p>基本的な文語のきまり、訓読のきまりを理解し、文章の音読や読解を行うことができる。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的仮名遣い、基本的な用言の活用(「活用表が完成できる」など)、基本的な助動詞(「ず」「けり」など)、係り結び、敬語などを理解する。</li> </ul> <p>・訓点や基本的な再読文字(未、将など)・置き字(於、而など)・句法(否定・使役など)について理解し、訓読したり書き下し文に改めたりすることができる。</p>
イ 言葉の特徴や決まりに関する事項 (ア)国語における言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割などを理解すること。	<p>【現代文】</p> <p>語句、語彙の構造的な仕組みとしての成り立ちについて基本的な事柄を知り、また、他の言語との比較から明らかになる表現の特色や、社会における言語の役割について基本的な事柄に気付き、活用することができる。</p>	

スタンダード「応用」	スタンダード「発展」
<ul style="list-style-type: none"> <li>・読んだ本や文章から、必要な情報を読み取り、目的に応じて活用することができる。</li> <li>・読んだ文章を評価することを通して、文章に表れた書き手の多様な思いや考えに気付くことができる。</li> </ul> <p>日本の伝統的な言語文化について主要な事柄を知り、また外国の文化の影響を理解する。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和歌の朗詠・贈答の慣習、三大集、歌物語などについて理解する。</li> <li>・主要な古典知識(月の異名、十二支、古時刻・古方位、年中行事)や価値観(結婚観や宗教観など)について理解する。</li> <li>・中国の文字や書物の影響のうち主要なもの(故事成語、漢詩など)について理解する。</li> </ul> <p>主要な文語のきまり、訓読のきまりを理解し、文章の音読や読解を行うことができる。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的仮名遣い、用言の活用、助動詞・基本的な助詞(「ば」など)の意味・用法、係り結び、敬語、和歌の修辞などを理解する。</li> </ul> <p>・訓点や再読文字、基本的な置き字・句法について理解し、訓読したり書き下し文に改めたりすることができる。</p> <p>【現代文】</p> <p>語句、語彙の構造的な仕組みとしての成り立ちについて主要な事柄を理解し、また、他の言語との比較から明らかになる表現の特色や、社会における言語の役割について主要な事柄を認識し、活用することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読んだ本や文章から、必要な情報を読み取り、目的に応じて適切に加工しながら活用することができる。</li> <li>・読んだ文章を評価することを通して、文章に表れた書き手の多様な思いや考えに触れ、その意義や価値に気付くことができる。</li> </ul> <p>日本の伝統的な言語文化について知り、また外国の文化の影響を理解し、主要な作品への影響を指摘することができる。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和歌の朗詠・贈答の慣習、三大集、勅撰集、歌物語などについて理解し、個々の文学並びに文学史について調べたり学んだりすることができる。</li> <li>・古典知識(月の異名、十二支、古時刻・古方位、年中行事、官位など)や価値観について理解する。</li> <li>・中国の文字や書物の影響(故事成語、漢詩、史伝・思想など)について理解する。</li> </ul> <p>文語のきまり、訓読のきまりを理解し、文章の音読や読解を正確に行うことができる。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的仮名遣い、用言の活用(「恨む」「飽く」などを含む)助詞・助動詞の意味・用法、係り結び、敬語の用法、和歌の修辞などを理解し、文法的に説明したり、本文の読解に役立てたりすることができる。</li> </ul> <p>・訓点、再読文字、置き字、句法について理解し、訓読したり、書き下し文を参考にして白文に訓点を施したりすることができる。</p> <p>【現代文】</p> <p>語句、語彙の構造的な仕組みとしての成り立ちについて理解し、また、他の言語との比較から明らかになる表現の特色や、社会における言語の役割について認識し、活用することができる。</p>

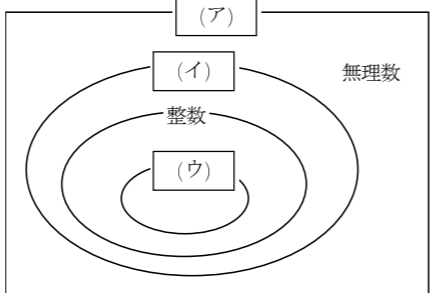
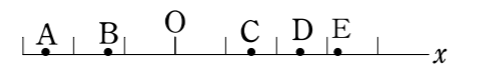
学習指導要領	スタンダード「基礎」
<p>(イ) 文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにすること。</p>	<p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・熟語の構成における主述関係や修飾、被修飾の関係などを理解する。</li> <li>・和語、漢語、外来語の区別ができ、効果の違いを知る。</li> </ul> <p>・言語の主要な機能（認識、伝達、思考、想像など）を理解する。</p> <p>【古典】</p> <p>言葉の歴史的な成り立ちと変遷、語彙の歴史的な経緯について基本的な事柄を知る。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的仮名遣いを理解して古文を正しく読むことができる。</li> <li>・基本的な古今異義語（うつくし、をかしなど）の意味の違いを知る。</li> </ul> <p>【現代文】</p> <p>文の成分や文章の構成、語句の意味、用法及び表記の仕方などについて基本的な事柄を知り、活用することができる。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な文について、文の成分（主語、述語、修飾語など）を指摘することができる。</li> <li>・比較的平易な文章の段落構成（序論・本論・結論、起承転結など）を理解する。</li> <li>・比較的平易な文章について、語句の意味・用法を理解する。</li> <li>・説明的文章に使用される語句のうち、基本的なもの（客観、具体、コミュニケーション、リアリティなど）の意味を理解する。</li> </ul> <p>【古典】</p> <p>古語辞典や漢和辞典を引くことができ、基本的な古語や漢語の意味を知る。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な古語（遊び、いらふ、ありがたし、いとなど）40語程度の意味を知る。</li> <li>・基本的な漢語（不、使、也、欲、乃など）20語程度の意味を知る。</li> </ul>

スタンダード「応用」	スタンダード「発展」
<p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・熟語の構成における主述関係や修飾、被修飾の関係を説明できる。</li> <li>・和語、漢語、外来語の区別やそれぞれの語感の違い、具体的な使われ方などを理解する。</li> </ul> <p>・言語の主要な機能を理解し、それが個人や対人的な領域だけでなく、社会的な領域で実現されていることを理解する。</p> <p>【古典】</p> <p>言葉の歴史的な成り立ちと変遷、語彙の歴史的な経緯について主要な事柄を知る。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的仮名遣いを理解して古文を正しく読んだり、表記したりすることができる。</li> <li>・主要な古今異義語（あはれなり、おどろく、ののしるなど）の意味の違いを知る。</li> </ul> <p>【現代文】</p> <p>文の成分や文章の構成、語句の意味、用法及び表記の仕方などについて主要な事柄を知り、活用することができる。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文の成分を理解し、照応関係に注意して文を書くことができる。</li> <li>・難易度が中程度の文章の段落構成を理解し、また、それを意識して文章を書くことができる。</li> <li>・難易度が中程度の文章について、語句の意味・用法を理解し、また適切に用いることができる。</li> <li>・説明的文章に使用される語句のうち主要なもの（相対、抽象、エゴイズム、グローバルなど）の意味を理解する。</li> </ul> <p>【古典】</p> <p>古語辞典や漢和辞典を活用し、基本的な古語や漢語の意味を理解する。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な古語（おぼえ、ながむ、あさまし、いかでなど）80語程度の意味を理解する。</li> <li>・基本的な漢語（豈、被、耳、況、已など）40語程度の意味を理解する。</li> </ul>	<p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・熟語の構成上の様々な関係について説明できる。</li> </ul> <p>・和語、漢語、外来語の区別やそれぞれの語感の違い、具体的な使われ方などを理解し、使い分けることができる。</p> <p>・言語の主要な機能を理解し、それが社会的、歴史的など様々な領域で実現されていることを理解する。</p> <p>【古典】</p> <p>言葉の歴史的な成り立ちと変遷、語彙の歴史的な経緯について理解する。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的仮名遣いを理解して古文を正しく読んだり、表記したりし、その規則性を説明できる。</li> <li>・古今異義語の意味の変遷を理解し、言葉の成り立ちについて考えることができる。</li> </ul> <p>【現代文】</p> <p>文の成分や文章の構成、語句の意味、用法及び表記の仕方などについて理解し、活用することができる。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文の成分を理解し、照応関係や表現効果を意識して文を書くことができる。</li> <li>・様々な文章の段落構成を理解し、また、それを意識して文章を書くことができる。</li> <li>・様々な文章について、語句の意味・用法を理解し、また適切に用いることができる。</li> <li>・説明的文章に使用される語句のうち難解なもの（概念、普遍、カテゴリー、マクロなど）の意味を理解する。</li> </ul> <p>【古典】</p> <p>古語辞典や漢和辞典を活用し、主要な古語や漢語の意味を理解する。</p> <p>《具体的な設定例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主要な古語（ほど、にほふ、あたらし、なかなかなど）100語程度の意味を理解する。</li> <li>・主要な漢語（寧、如何、与、縦、若など）50語程度の意味を理解する。</li> </ul>

学習指導要領	スタンダード「基礎」
<p>ウ 漢字に関する事項                      (ア)常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字が書けるようになること。</p>	<p>常用漢字の大体を読み、学年別漢字配当表の漢字1006字を含む1300字程度を書くことができ、文や文章の中で使うことができる。</p>

スタンダード「応用」	スタンダード「発展」
<p>常用漢字の大体を読み、学年別漢字配当表の漢字1006字を含む1600字程度を書くことができ、文や文章の中で使うことができる。</p>	<p>常用漢字の全てを読み、その大体を書くことができ、文や文章の中で使い慣れる。</p>



学習指導要領		スタンダード「基礎」
(1) 数と式	<p>ア 数と集合</p> <p>(ア) 実数</p> <p>数を実数まで拡張する意義を理解し、簡単な無理数の四則計算をすること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然数、整数、有理数、無理数の包含関係など、実数の構成を理解する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(例) 次の空欄に適切な言葉をいれて、数の集合を表しなさい。</p>  </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>実数と直線上の点が一対一対応であることを理解し、実数を数直線上に示すことができる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(例) 実数(1)2.5, (2)<math>\pi</math>, (3)<math>-\sqrt{3}</math>が対応する数直線上の点はどれか答えよ。</p>  </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>無理数の加法及び減法、乗法公式などを利用した計算ができる。また、分母だけが二項である無理数の分母の有理化ができる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(例1) <math>3\sqrt{18} - \sqrt{27} + \frac{\sqrt{6}}{2\sqrt{2}}</math>を計算せよ。</p> <p>(例2) <math>(3\sqrt{2} - \sqrt{6})^2</math>を計算せよ。</p> <p>(例3) <math>\frac{1}{\sqrt{5} + \sqrt{3}}</math>の分母を有理化せよ。</p> </div>

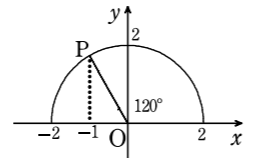
スタンダード「応用」	スタンダード「発展」																									
<ul style="list-style-type: none"> <li>自然数、整数、有理数、無理数、実数のそれぞれの集合について、四則演算の可能性について判断できる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(例) 下の表において、それぞれの数の範囲で四則計算を考えると、計算がその範囲で常にできる場合には○を、常にできるとは限らない場合には×をつけよ。ただし、除法では0で割ることは考えない。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>加法</th> <th>減法</th> <th>乗法</th> <th>除法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自然数</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>整数</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>有理数</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実数</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>実数の絶対値が実数と対応する点と原点との距離であることを理解する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(例) 次の値を求めよ。</p> <p>(1) <math> -2 </math>                      (2) <math> 2 - \sqrt{6} </math></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>置き換えなどを利用して、三項の無理数の乗法の計算ができる。また、分母と分子がともに二項である無理数の分母の有理化ができ、さらに、無理数の整数部分や小数部分を求めることができる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(例1) <math>(1 + \sqrt{2} + \sqrt{3})(1 + \sqrt{2} - \sqrt{3})</math>を計算せよ。</p> <p>(例2) <math>\frac{\sqrt{3} + 1}{\sqrt{3} - 1}</math>の整数部分を<math>a</math>、小数部分を<math>b</math>とすると、<math>a</math>と<math>b</math>の値を求めよ。</p> </div>		加法	減法	乗法	除法	自然数					整数					有理数					実数					<ul style="list-style-type: none"> <li>数の演算の可能性や方程式の解の存在などに関連付けて数の拡張の意義を理解する。また、様々な数の集合について、四則演算の可能性について判断できる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(例) 集合 <math>A = \{a + b\sqrt{3} \mid a \in \mathbb{Z}, b \in \mathbb{Z}\}</math> は、四則演算のどの演算に閉じているか答えよ。ただし、整数全体の集合を<math>\mathbb{Z}</math>とする。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>絶対値を含む式を、場合分けをして、絶対値をはずした式で表すことができる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(例) <math> a + 2  +  a - 3 </math>を簡単にせよ。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>分母が三項である無理数の分母の有理化ができる。また、二重根号を簡単な式に変形できる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(例1) <math>\frac{1}{1 + \sqrt{2} + \sqrt{3}}</math>の分母を有理化せよ。</p> <p>(例2) <math>\sqrt{7 - 2\sqrt{10}}</math>を簡単にせよ。</p> </div>
	加法	減法	乗法	除法																						
自然数																										
整数																										
有理数																										
実数																										

学習指導要領	スタンダード「基礎」
<p>(イ) 集合 集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用すること。</p>	<p>・集合に関する基本的な用語・記号や集合の包含関係を理解するとともに、ベン図や数直線を活用して、二つの集合について、共通部分、和集合、補集合を求めることができる。</p> <div data-bbox="825 386 1317 827" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(例) 次の二つの集合 <math>A, B</math> の関係を <math>\subset, \supset</math> を使って表せ。</p> <p>(1) 正方形の集合を <math>A</math> ひし形の集合を <math>B</math></p> <p>(2) <math>A = \{x \mid -3 &lt; x\}</math> <math>B = \{x \mid 1 &lt; x\}</math></p> <p>(例) 集合 <math>U</math> を 1 から 9 までの自然数の集合とする。 <math>U</math> の部分集合 <math>A = \{2, 3, 5, 7\}</math>, <math>B = \{5, 6, 7\}</math> について、次の集合を求めよ。</p> <p>(1) <math>A \cap B</math>                      (2) <math>A \cup B</math> (3) <math>\overline{A}</math>                              (4) <math>\overline{A \cap B}</math></p> </div> <p>・命題、条件の否定、命題の逆・裏・対偶などの基本事項を理解し、集合（真理集合）を用いて、命題の真偽が判断できる。また、二つの条件について、「必要条件」「十分条件」を判断できる。</p> <div data-bbox="825 1052 1317 1451" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(例 1) 次の命題の逆を述べよ。また、その命題の真偽を答えよ。なお、偽である場合は反例をあげよ。</p> <p>「<math>x = 5 \Rightarrow x^2 = 25</math>」</p> <p>(例 2) 次の□に「必要」、「十分」のうち、最も適切なものを入れよ。</p> <p>「<math>n</math> を自然数とするとき、<math>n</math> が 24 の正の約数であることは、<math>n</math> が 12 の正の約数であるための□条件である。」</p> </div> <p>・命題の対偶と元の命題の真偽が一致することを理解し、命題の対偶による証明ができる。また、背理法が「<math>p \Rightarrow q</math>」を仮定して、矛盾を導き出すことによる証明法であることを知る。</p> <div data-bbox="825 1682 1317 1814" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(例) <math>n</math> は整数とする。対偶を利用して、「<math>n^2</math> が 3 の倍数ならば、<math>n</math> は 3 の倍数である。」を証明せよ。</p> </div>

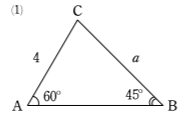
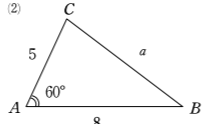
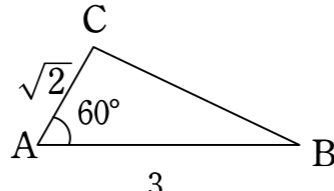
スタンダード「応用」	スタンダード「発展」
<p>・三つの集合について、共通部分、和集合を求めることができる。また、二つの集合について、「ド・モルガンの法則」を理解する。</p> <div data-bbox="1715 386 2208 758" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(例) <math>U = \{n \mid n \text{ は } 1 \text{ 桁の自然数}\}</math> を全体集合とし、<math>U</math> の部分集合 <math>A, B, C</math> について、以下が成立している。</p> <p><math>B = \{1, 4, 8, 9\}</math>, <math>A \cup B = \{1, 2, 4, 5, 7, 8, 9\}</math>, <math>A \cup C = \{1, 2, 4, 5, 6, 7, 9\}</math>, <math>A \cap B = \{4, 9\}</math>, <math>A \cap C = \{7\}</math> <math>B \cap C = \{1\}</math>, <math>A \cap B \cap C = \phi</math></p> <p>(1) 集合 <math>A</math> を求めよ。 (2) 集合 <math>\overline{B \cap C}</math> を求めよ。</p> </div> <p>・「かつ」と「または」の否定について、集合の「ド・モルガンの法則」と関連付けて理解する。</p> <div data-bbox="1715 1062 2208 1215" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(例) 次の条件の否定を答えよ。</p> <p>(1) <math>x &lt; -1</math> または <math>2 \leq x</math> (2) <math>x &lt; 0</math> かつ <math>y &gt; 2</math></p> </div> <p>・背理法を理解し、簡単な命題の証明に活用することができる。</p> <div data-bbox="1715 1671 2208 1803" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(例) 背理法を利用して、<math>\sqrt{3}</math> が無理数であることを証明せよ。</p> </div>	<p>・数直線を活用して、要素の個数や共通部分、和集合、補集合を求めることができる。</p> <div data-bbox="2282 386 2775 758" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(例) <math>x</math> は実数とする。</p> <p><math>A = \{x \mid x \leq 0, 3 \leq x\}</math>, <math>B = \{x \mid -3 &lt; x &lt; 5\}</math> のとき、</p> <p>(1) <math>A \cap B</math> の要素のうち、整数の個数を求めよ。 (2) <math>A \cup B</math> の補集合を求めよ。</p> </div> <p>・様々な命題について、適切な証明法を選択し、証明することができる。</p> <div data-bbox="2282 1671 2775 1803" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(例) 三つの整数 <math>a, b, c</math> が <math>a^2 + b^2 = c^2</math> を満たすとき、<math>a, b, c</math> の少なくとも 1 つは偶数であることを証明せよ。</p> </div>

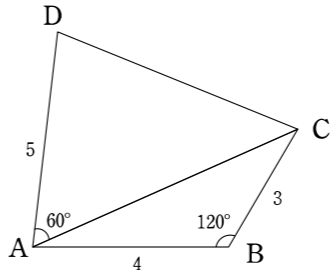
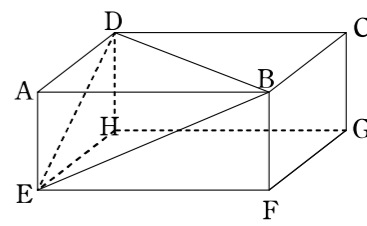
学習指導要領	スタンダード「基礎」
<p>イ 式</p> <p>(ア) 式の展開と因数分解 二次の乗法公式及び因数分解の公式の理解を深め、式を多面的にみたり目的に応じて式を適切に変形したりすること。</p> <p>(イ) 一次不等式 不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、一次不等式の解を求めたり一次不等式を事象の考察に活用したりすること。</p>	<p>・二次の乗法公式及び因数分解の公式が活用できる。また、式の置き換えや一つの文字に着目するなどして、展開・因数分解ができる。</p> <div data-bbox="819 443 1320 695" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(例) 次の間に答えよ。</p> <p>(1) <math>(3x - 2a)(4x - 3a)</math> を展開せよ。</p> <p>(2) <math>2x^2 - 7x + 3</math> を因数分解せよ。</p> <p>(3) <math>xy - x - y + 1</math> を因数分解せよ。</p> <p>(4) <math>(x + y)^2 - 4(x + y) - 5</math> を因数分解せよ。</p> </div> <p>・数量の大小関係についての条件を不等式で表すことができ、大小関係を処理する上での基本となる不等式の性質を理解する。</p> <div data-bbox="819 884 1320 1104" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(例) <math>a &lt; b</math> のとき、次の□の中にく、&gt;のいずれかの記号を記入せよ。</p> <p>(1) <math>a + 2 \square b + 2</math>    (2) <math>a - 3 \square b - 3</math></p> <p>(3) <math>a \times 2 \square b \times 2</math>    (4) <math>\frac{a}{-3} \square \frac{b}{-3}</math></p> </div> <p>・不等式の解の意味を理解するとともに、不等式の性質を利用して、一次不等式や連立不等式を解くことができる。また、日常的な簡単な事象について一次不等式や連立不等式を活用できる。</p> <div data-bbox="819 1381 1320 1738" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(例1) 不等式 <math>3(3 - 2x) \leq 4 - 3x</math> を解け。</p> <p>(例2) 連立不等式 <math>\begin{cases} 6x - 9 &lt; 2x - 1 \\ 3x + 7 \geq 4(2x + 3) \end{cases}</math> を解け。</p> <p>(例3) 1枚2gのカードを7gの封筒に入れて、30g以内にして送りたい。カードは最大何枚入れて送ることができるか。</p> </div>

スタンダード「応用」	スタンダード「発展」
<p>・式の置き換えや一つの文字に着目するなどして、複雑な式を簡単な式に帰着させ、展開・因数分解できる。また、対称式の式変形ができる。</p> <div data-bbox="1709 428 2211 680" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(例) 次の間に答えよ。</p> <p>(1) <math>(a - b + c)^2</math> を展開せよ。</p> <p>(2) <math>x^2 + 3xy + 2y^2 - x - 3y - 2</math> を因数分解せよ。</p> <p>(3) <math>x + y = 3</math>, <math>xy = 1</math> のとき、<math>x^2 + y^2</math> を求めよ。</p> </div> <p>・絶対値の定義を理解し、絶対値を含む方程式及び一次不等式を解くことができる。</p> <div data-bbox="1709 1297 2211 1392" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(例) 不等式 <math> 2x - 3  &lt; 5</math> を解け。</p> </div> <p>・一次不等式や連立不等式を解くことができ、整数解の個数などについて、解を吟味して求めることができる。</p> <div data-bbox="1709 1633 2211 1812" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(例) 次の不等式を満たす最小の自然数を求めよ。</p> <math display="block">4 + \frac{1}{5}(n - 4) &lt; \frac{1}{2}n</math> </div>	<p>・式を多面的に捉えることができ、展開や複二次式の因数分解など、様々な式の処理ができる。</p> <div data-bbox="2273 428 2775 606" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(例) 次の間に答えよ。</p> <p>(1) <math>(x^2 + 2x + 3)(x^2 - 2x + 3)</math> を展開せよ。</p> <p>(2) <math>x^4 + 3x^2 + 4</math> を因数分解せよ。</p> </div> <p>・場合分けを利用し、絶対値を含む方程式及び一次不等式を解くことができる。</p> <div data-bbox="2273 1297 2775 1392" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(例) 方程式 <math> 2x  +  x - 3  = 9</math> を解け。</p> </div>

学習指導要領		スタンダード「基礎」
(2) 図形の計量	ア 三角比 (ア) 鋭角の三角比 鋭角の三角比の意味と相互関係について理解すること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>鋭角の三角比の定義を、直角三角形の辺の比と角の大きさとの間の関係として理解し、直角三角形の辺の長さを求めることができるとともに、身近な事象に活用できる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     (例) 鉄塔を支えるために、50m のロープを地上のA地点から鉄塔の先端Bまで張った。先端Bの真下の地点をHとすると、<math>\angle BAH=40^\circ</math>であった。塔の高さBHを求めよ。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>三角比の相互関係を理解し、一つの三角比の値から残りの三角比の値を求めることができる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     (例) <math>\angle C=90^\circ</math>である直角三角形ABCにおいて、<math>\cos A=\frac{1}{5}</math>のとき、<math>\sin A</math>、<math>\tan A</math>の値を求めよ。                 </div>
	(イ) 鈍角の三角比 三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求めること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>鈍角の三角比の定義が鋭角の三角比の定義の拡張であることを理解する。また、<math>180^\circ-\theta</math>の三角比について理解し、鈍角の三角比を求めることができる。(三角比の表を活用することも含む。)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     (例) 次の図を用いて、<math>\sin 120^\circ</math>、<math>\cos 120^\circ</math>、<math>\tan 120^\circ</math>の値を求めよ。   </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     (例) 三角比の表を用いて、次の値を求めよ。                      (1) <math>\sin 100^\circ</math> (2) <math>\cos 140^\circ</math> (3) <math>\tan 170^\circ</math> </div>

スタンダード「応用」	スタンダード「発展」
<ul style="list-style-type: none"> <li>鋭角の三角比の定義を理解し、三角比を活用して、身近なものの長さ(高さ、距離等)や角度を求めることができる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     (例) 地点Aから塔の先端Pを見上げた角は<math>60^\circ</math>であった。次に、塔へ向かって水平に10m進んだ地点BからPを見上げた角は<math>45^\circ</math>であった。先端Pの真下の地点をHとすると、塔の高さPHを求めよ。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li><math>90^\circ-\theta</math>の三角比について理解し、適切に活用できる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     (例) <math>\angle C=90^\circ</math>である直角三角形ABCにおいて、<math>\cos A=\frac{4}{5}</math>のとき、次の間に答えよ。                      (1) <math>\sin A</math>、<math>\tan A</math>の値を求めよ。                      (2) <math>\cos(90^\circ-A)</math>、<math>\sin(90^\circ-A)</math>、<math>\tan(90^\circ-A)</math>の値を求めよ。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>座標平面を利用して、三角方程式及び三角不等式を<math>0^\circ</math>から<math>180^\circ</math>までの範囲で解くことができる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     (例) <math>0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ</math>において、次の方程式及び不等式を満たす<math>\theta</math>を求めよ。                      (1) <math>\cos \theta = \frac{1}{\sqrt{2}}</math> (2) <math>\sin \theta \geq \frac{1}{2}</math> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>三角比の相互関係を鋭角の三角比の定義に基づいて説明することができ、三角比やその相互関係を適切に活用できる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     (例) 次の公式を三角比の定義に基づいて説明せよ。  <math display="block">1 + \tan^2 \theta = \frac{1}{\cos^2 \theta}</math> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li><math>90^\circ-\theta</math>、<math>180^\circ-\theta</math>の三角比の考え方を基に、<math>90^\circ+\theta</math>の三角比を考察し、式の証明などに活用できる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     (例) <math>\sin(90^\circ+\theta)</math>、<math>\cos(90^\circ+\theta)</math>、<math>\tan(90^\circ+\theta)</math>を<math>\sin \theta</math>、<math>\cos \theta</math>、<math>\tan \theta</math>で表せ。また、その理由も答えよ。                 </div>

学習指導要領	スタンダード「基礎」
<p>(ウ) 正弦定理・余弦定理 正弦定理や余弦定理について理解し、それらを用いて三角形の辺の長さや角の大きさを求めること。</p>	<p>・三角比の相互関係が <math>90^\circ \leq \theta \leq 180^\circ</math> まで拡張されることを理解し、一つの三角比の値から残りの三角比の値を求めることができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>(例) <math>0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ</math> において、<math>\sin \theta = \frac{5}{13}</math> のとき、<math>\cos \theta</math>、<math>\tan \theta</math> の値を求めよ。</p> </div> <p>・三角形の辺と角の間に成り立つ基本的な関係として正弦定理及び余弦定理を理解し、正弦定理や余弦定理を利用して、辺の長さを求めることができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>(例) 次の間に答えよ。</p> <p>(1) <math>\triangle ABC</math> において、<math>b=4</math>、<math>\angle A=60^\circ</math>、<math>\angle B=45^\circ</math> のとき、<math>a</math> を求めよ。</p>  <p>(2) <math>\triangle ABC</math> において、<math>b=5</math>、<math>c=8</math>、<math>\angle A=60^\circ</math> のとき、<math>a</math> を求めよ。</p>  </div>
<p>イ 図形の計量 三角比を平面図形や空間図形の考察に活用すること。</p>	<p>・三角比を利用して、三角形の面積を求めることができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>(例) 次の図のような <math>\triangle ABC</math> において、<math>b=\sqrt{2}</math>、<math>c=3</math>、<math>\angle A=60^\circ</math> のとき、<math>\triangle ABC</math> の面積 <math>S</math> を求めよ。</p>  </div>

スタンダード「応用」	スタンダード「発展」
<p>・三角比の相互関係を用いて、三角比で表されている簡単な式の証明ができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>(例) 次の式を証明せよ。 <math>\sin^4 \theta - \cos^4 \theta + 2 \cos^2 \theta = 1</math></p> </div> <p>・三角形の外接円の半径とその三角形の三角比との関係を考察し、正弦定理を理解するとともに、正弦定理や余弦定理を利用して、辺の長さや角の大きさを求めることができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>(例) 次の間に答えよ。</p> <p>(1) <math>\triangle ABC</math> において、<math>c=\sqrt{6}</math>、<math>a=2</math>、<math>\angle C=60^\circ</math> のとき、<math>A</math> 及び外接円の半径 <math>R</math> を求めよ。</p> <p>(2) <math>\triangle ABC</math> において、<math>a=8</math>、<math>b=7</math>、<math>c=13</math> のとき、<math>C</math> を求めよ。</p> </div>	<p>・三角比を含む対称式・交代式の値を求めることができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>(例) <math>90^\circ &lt; \theta &lt; 180^\circ</math> において、 <math>\sin \theta + \cos \theta = \frac{1}{3}</math> のとき、<math>\sin \theta \cos \theta</math>、<math>\sin \theta - \cos \theta</math> の値を求めよ。</p> </div> <p>・正弦定理、余弦定理を三角形の決定条件と関連付けて理解し、三角形の形状、辺の長さや角の大きさを求めることができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>(例) <math>\triangle ABC</math> において、次の等式の等式が成り立つとき、<math>A</math>、<math>B</math>、<math>C</math> のうち、最も大きい角の大きさを求めよ。</p> <math display="block">\frac{\sin A}{5} = \frac{\sin B}{3} = \frac{\sin C}{7}</math> </div>
<p>・三角比を活用して、平面図形の計量に利用することができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>(例) 次の図のような四角形 <math>ABCD</math> において、<math>AB=4</math>、<math>BC=3</math>、<math>AD=5</math>、<math>\angle ABC=120^\circ</math>、<math>\angle CAD=60^\circ</math> のとき、次の値を求めよ。</p> <p>(1) 対角線 <math>AC</math> の長さ (2) 四角形 <math>ABCD</math> の面積</p>  </div>	<p>・三角比を活用して、平面図形や空間図形の計量に利用することができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>(例) 次の図のような直方体 <math>ABCD-EFGH</math> において、<math>AE=\sqrt{10}</math>、<math>EB=10</math>、<math>ED=8</math> のとき、<math>\triangle BDE</math> の面積を求めよ。</p>  </div>

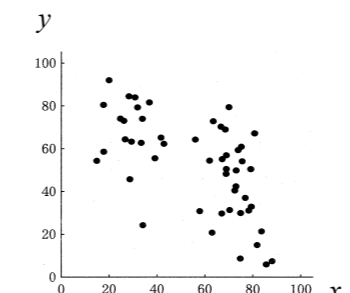
学習指導要領		スタンダード「基礎」
(3) 二次関数 ア 二次関数とそのグラフ 事象から二次関数で表される関係を見いだすこと。また、二次関数のグラフの特徴について理解すること。		<ul style="list-style-type: none"> <li>関数の定義を理解し、基本的な事項（定義域、値域、座標平面等）を理解するとともに、座標平面上の点の平行移動や二次関数で表される事象を判断できる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     (例) 座標平面上の点 <math>A(2, 1)</math> を <math>x</math> 軸方向に 2、<math>y</math> 軸方向に -3 だけ平行移動した点の座標を求めよ。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>対称軸（直線 <math>x = p</math>）や頂点 <math>(p, q)</math> に着目して二次関数のグラフの特徴を捉えることができ、二次関数 <math>y = ax^2 + bx + c</math> を <math>y = a(x - p)^2 + q</math> の形に変形し、二次関数のグラフをかきことができる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     (例 1) 二次関数 <math>y = x^2 - 2x + 3</math> について、次の間に答えよ。                      (1) <math>y = a(x - p)^2 + q</math> の形に変形せよ。                      (2) 頂点の座標と軸の方程式を求めよ。                      (3) 二次関数 <math>y = x^2 - 2x + 3</math> のグラフをかけ。                      (例 2) 次の空欄に適当な数値を記入せよ。                      「頂点が <math>(1, 2)</math> となるように関数 <math>y = -2x^2</math> を平行移動した二次関数のグラフ方程式は、<math>y = -2(x - \square)^2 + \square</math> である。」                 </div>
	イ 二次関数の値の変化 (ア) 二次関数の最大・最小 二次関数の値の変化について、グラフを用いて考察したり最大値や最小値を求めたりすること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>二次関数のグラフから頂点又は軸を境として、関数の値の増減が変化することを理解し、二次関数の最大や最小を考察でき、具体的な事象に活用できる。（閉区間を含む。）</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     (例) 次の二次関数に最大値、最小値があればそれを求めよ。                      (1) <math>y = (x + 2)^2 - 2</math>                      (2) <math>y = -(x + 2)^2 + 2</math>                      (3) <math>y = x^2 - 4x + 1 (0 \leq x \leq 3)</math> </div>

スタンダード「応用」	スタンダード「発展」
<ul style="list-style-type: none"> <li>関数を表現する記号として <math>f(x)</math> を理解し、活用できる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     (例) 関数 <math>f(x) = 2x - 4</math> について、<math>f(-1)</math>、<math>f(2)</math>、<math>f(3 - a)</math> を求めよ。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>二次関数 <math>y = ax^2 + bx + c</math> のグラフの特徴について理解し、与えられた式を適切に変形して二次関数のグラフをかきことができる。また、与えられた条件から、二次関数の式を求めることができる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     (例 1) 二次関数 <math>y = 2x^2 - 4x + 5</math> の軸と頂点を求め、グラフをかけ。また、頂点と軸を求めよ。                      (例 2) 軸が <math>x = 2</math> である二次関数のグラフが、2点 <math>A(1, -4)</math>、<math>B(4, 5)</math> を通るとき、そのグラフを表す二次関数を求めよ。                      (例 3) 3点 <math>A(1, 5)</math>、<math>B(2, 1)</math>、<math>C(3, -7)</math> を通る放物線を表す二次関数を求めよ。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>二次関数のグラフを活用して、制限された区間（開区間も含む。）における二次関数の最大や最小について考察できる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     (例) 次の二次関数の最大値、最小値があればそれを求めよ。                      (1) <math>y = -2x^2 + 12x - 4 (1 \leq x \leq 2)</math>                      (2) <math>y = x^2 - 4x + 3 (1 &lt; x \leq 4)</math>                      (3) <math>y = -x^2 + 2x + 1 (1 \leq x &lt; 4)</math> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>絶対値やガウス記号を含む簡単な関数の変化について考察し、グラフをかきことができる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     (例) 関数のグラフをかけ。                      (1) <math>f(x) =  x - 1 </math>                      (2) <math>f(x) = [x]</math> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>二次関数を表す式を適切に処理し、グラフの平行移動についての考察ができ、二つの放物線の位置関係を説明すること等ができる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     (例 1) 二次関数 <math>y = x^2 + 2x + 2</math> のグラフを <math>y = x^2 - 6x + 11</math> のグラフに重ねるためには、<math>x</math> 軸方向、<math>y</math> 軸方向にどれだけ平行移動すればよいか。                      (例 2) 二次関数 <math>y = -2x^2 + x</math> のグラフを <math>x</math> 軸方向に 3、<math>y</math> 軸方向に -2 だけ平行移動した二次関数のグラフの方程式を求めよ。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>係数や定数項に文字が含まれる二次関数について、適切な場合分けをして、二次関数の最大や最小を考察できる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     (例) <math>a</math> を定数とすると、次の二次関数の最小値を求めよ。  <math>y = x^2 - 2ax (0 \leq x \leq 2)</math> </div>

学習指導要領	スタンダード「基礎」
<p>(イ) 二次方程式・二次不等式 二次方程式の解と二次関数のグラフとの関係について理解するとともに、数量の関係を二次不等式で表し二次関数のグラフを利用してその解を求めること。</p>	<p>・二次関数のグラフと <math>x</math> 軸との共有点の <math>x</math> 座標は二次方程式の解であることを理解し、<math>x</math> 軸との共有点の <math>x</math> 座標を求めることができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(例) 次の二次関数のグラフと <math>x</math> 軸との共有点の <math>x</math> 座標を求めよ。</p> <p>(1) <math>y=x^2-3x-4</math></p> <p>(2) <math>y=x^2-4x+4</math></p> </div> <p>・二次関数のグラフと <math>x</math> 軸との位置関係により、二次不等式の解の意味を理解し、二次関数のグラフを活用して、<math>x</math> 軸との共有点が2個である場合の二次不等式について解くことができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(例) 次の二次不等式を解け。</p> <p>(1) <math>(x-1)(x-4)&lt;0</math></p> <p>(2) <math>x^2-x-2\geq 0</math></p> </div>
<p>(4) ア データの散らばり 四分位偏差、分散及び標準偏差等の意味について理解し、それらを用いてデータの傾向を把握し、説明する。</p>	<p>・最小値、四分位数、最大値、四分位範囲、四分位偏差、分散、標準偏差等の用語について理解するとともに、データから最小値、第1四分位数、第2四分位数(中央値)、第3四分位数、最大値を求め、これらに基づいて箱ひげ図をかくことができる。また、四分位偏差を求め、複数のデータの散らばりについて比較、説明することができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(例) 次のデータA, B, Cについて、最小値、第1四分位数、第2四分位数、第3四分位数、最大値の値を求め、箱ひげ図をかけ。また、四分位偏差を用いて、散らばり具合の大きい順に並べ、その理由を述べよ。</p> <p>A : 3, 1, 5, 3, 2, 4, 1, 8, 2, 6</p> <p>B : 5, 7, 3, 5, 6, 4, 5, 5, 8, 5</p> <p>C : 4, 2, 4, 5, 9, 8, 3, 5, 2, 9</p> </div>

スタンダード「応用」	スタンダード「発展」
<p>・二次関数のグラフと <math>x</math> 軸との位置関係を、二次方程式の判別式 <math>D</math> を活用し、共有点の個数を求めることができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(例) 次の二次関数のグラフと <math>x</math> 軸との共有点の個数を答えよ。</p> <p>(1) <math>y=x^2-3x-4</math></p> <p>(2) <math>y=-x^2+4x-4</math></p> <p>(3) <math>y=3x^2-5x+4</math></p> </div> <p>・二次関数のグラフと <math>x</math> 軸との共有点が1個又は0個である場合の二次不等式を解くことができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(例) 次の二次不等式を解け。</p> <p>(1) <math>x^2-6x+9\geq 0</math></p> <p>(2) <math>x^2-6x+10&lt;0</math></p> <p>(3) <math>x^2-6x+10&gt;0</math></p> </div>	<p>・係数や定数項に文字が含まれる二次関数について、そのグラフと <math>x</math> 軸との位置関係を、適切に場合分けをして、考察することができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(例) 二次関数 <math>y=x^2-4x+k</math> のグラフと <math>x</math> 軸との共有点の個数を求めよ。</p> </div> <p>・係数に文字が含まれる二次不等式について、二次関数のグラフなどを活用して考察できる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(例) 二次不等式 <math>x^2+2mx+2m&gt;0</math> の解がすべての実数であるとき、定数 <math>m</math> の値の範囲を求めよ。</p> </div>
<p>・標準偏差を計算して、複数のデータの平均値からの散らばりを比較、説明することができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(例) 次のデータA, Bについて、平均値からの散らばり具合の大きいのはどちらか。その理由を述べよ。</p> <p>A : 3, 5, 4, 3, 5</p> <p>B : 6, 8, 5, 7, 6</p> </div>	<p>・最小値、第1四分位数、第2四分位数(中央値)、第3四分位数、最大値などを表す箱ひげ図とデータの分布(ヒストグラム)と関連させて、データの特徴を捉えることができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(例) ア、イのヒストグラムについて、同じデータを使って表示した箱ひげ図はどれか。下の①～④から選べ。</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>ア</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>イ</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <p>①</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>②</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <p>③</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>④</p> </div> </div>

学習指導要領	スタンダード「基礎」																																	
<p>イ データの相関                      散布図や相関係数の意味を理解し、それらを用いて二つのデータの相関を把握し説明すること。</p>	<p>・散布図や相関係数の意味を理解するとともに、二つのデータの相関について説明できる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(例) 次の変数<math>x</math>と変数<math>y</math>の対応表から相関係数を求めたら<math>-0.9</math>であった。</p> <table border="1" style="margin: 0 auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> <th>E</th> <th>F</th> <th>G</th> <th>H</th> <th>I</th> <th>J</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>変数<math>x</math></td> <td>2</td> <td>7</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>8</td> <td>1</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>変数<math>y</math></td> <td>5</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>このことから、変数<math>x</math>と変数<math>y</math>について、どのようなことがいえるか。最も適当なものを一つ選べ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 正の相関があり、変数<math>x</math>の値が大きいほど変数<math>y</math>の値が大きい。</li> <li>② 正の相関があり、変数<math>x</math>の値が小さいほど変数<math>y</math>の値が大きい。</li> <li>③ 負の相関があり、変数<math>x</math>の値が大きいほど変数<math>y</math>の値が大きい。</li> <li>④ 負の相関があり、変数<math>x</math>の値が小さいほど変数<math>y</math>の値が大きい。</li> <li>⑤ 相関関係はほとんどなく、変数<math>x</math>の値によって変数<math>y</math>の値は影響を受けていない。</li> </ol> </div>		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	変数 $x$	2	7	5	4	3	4	0	8	1	6	変数 $y$	5	2	1	3	5	3	6	0	4	1
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J																								
変数 $x$	2	7	5	4	3	4	0	8	1	6																								
変数 $y$	5	2	1	3	5	3	6	0	4	1																								

スタンダード「応用」	スタンダード「発展」																																	
<p>・散布図が表す形状と相関係数の関係について把握できる。相関係数の絶対値が1に近いほど相関が強いことを理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(例) 変数<math>x</math>と変数<math>y</math>との散布図を作ったところ、次の図のようになった。</p>  <p>2つの変数<math>x</math>、<math>y</math>の相関係数として、最も近い値を下から選びなさい。</p> <p>(1) <math>-0.9</math>    (2) <math>-0.6</math>    (3) <math>0.0</math>                      (4) <math>0.6</math>    (5) <math>0.9</math>    (6) <math>1.0</math></p> </div>	<p>・二つのデータの対応表や相関表から相関係数を求めることができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(例) 次の変数<math>x</math>と変数<math>y</math>の対応表から、変数<math>x</math>と変数<math>y</math>の相関係数を求めよ。</p> <table border="1" style="margin: 0 auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> <th>E</th> <th>F</th> <th>G</th> <th>H</th> <th>I</th> <th>J</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>変数<math>x</math></td> <td>2</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>変数<math>y</math></td> <td>2</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> </div>		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	変数 $x$	2	1	3	3	2	1	1	2	2	3	変数 $y$	2	3	1	2	1	2	3	3	2	1
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J																								
変数 $x$	2	1	3	3	2	1	1	2	2	3																								
変数 $y$	2	3	1	2	1	2	3	3	2	1																								



学習指導要領		スタンダード「基礎」
聞くこと	ア 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>相づちを打ったり、聞き直したりするなどして、相手の話に関心をもって聞き続けることができる。</li> <li>聞き取れない単語や未知の語句があっても、絵や図を参考にして、内容を推測するなどして聞き続けることができる。</li> <li>事物に対する紹介や対話などを聞いて、大きなテーマや概要を捉えて、聞き続けることができる。</li> <li>英語による簡単な指示や基礎的な発問を聞き取ることができる。</li> <li>会話文などにおける基本的な定型表現（挨拶、道案内など）を聞いて理解することができる。</li> <li>場面や状況、相手の表情などを踏まえて、話し手の意図を把握し、質問や指示などに適切に応じることができる。</li> <li>単語の発音の特徴や、基本的な文章のリズムやイントネーション（文全体に及ぶ声の高さの変動）を捉えて聞くことができる。</li> <li>英語を使用している人々の日常生活、風俗習慣など、「聞くこと」の言語活動に必要な基本的な文化的背景について理解する。</li> </ul>
読むこと	イ 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>英和辞典を正しく使いながら、200～300語程度の教科書の文章を読んで、概要や要点を捉えることができる。</li> <li>教科書の文章を読んで、文中に未知の語句があっても、絵や図などを参考にして、推測しながら読み続けることができる。</li> <li>教科書の文章の単語の発音に気を付けて、聞き手に伝わるように音読することができる。</li> <li>教科書の文章を、フレーズ毎に、適切な速度と音量で音読することができる。</li> <li>教科書の文章を読んで、つながりを示す基本的な語句の知識に注意しながら、英語の論理展開</li> </ul>

スタンダード「応用」	スタンダード「発展」
<ul style="list-style-type: none"> <li>相づちを打ったり、繰り返しや説明を求めたりしながら、相手の話に関心をもって聞き続けることができる。</li> <li>聞き取れない単語や未知の語句があっても、前後関係や文脈を考えて、内容を推測するなどして聞き続けることができる。</li> <li>事物に対する紹介や対話などを聞いて、メモを取るなどして、聞き続けることができる。</li> <li>5～6文のややまとまった長さの文章について、情報や考え、事実と意見を区別し、整理しながら聞くことができる。</li> <li>英語による指示や言い換えられた文章を聞いて理解することができる。</li> <li>場面や状況、相手の表情などを踏まえて、話し手の意図を把握し、質問や指示などに適切に応じることができる。</li> <li>リズムやイントネーションなどに表れる話し手の意図や気持ちを捉え、音のつながりや欠落に注意して的確に聞くことができる。</li> <li>英語を使用している人々の日常生活、風俗習慣など、「聞くこと」の言語活動に必要な文化的背景について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相づちを打ったり、繰り返しや説明を求めたり、言い換えて確認したりするなどして、相手の話に関心をもって聞き続けることができる。</li> <li>聞き取れない単語や未知の語句があっても、つながりを示す語句（according to, as a result, however, in other words, on the other handなど）に注意しながら、内容を推測するなどして聞き続けることができる。</li> <li>事物に対する紹介や対話などを聞いて、箇条書きでメモを取るなどして情報を整理したり、展開を予想したりするなどして、聞き続けることができる。</li> <li>複数の段落のまとまった長さの文章について、情報や考え、事実と意見を区別し、整理しながら聞くことができる。</li> <li>英語による説明や意見を聞いて理解することができる。</li> <li>場面や状況、相手の表情などを踏まえて、話し手の意図を把握し、質問や指示などに適切に応じることができる。</li> <li>リズムやイントネーションなどに表れる話し手の意図や気持ちを捉え、音のつながりや欠落に注意して的確に聞くことができる。</li> <li>英語を使用している人々の日常生活、風俗習慣など、「聞くこと」の言語活動を深めていくために必要な文化的背景について理解する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>自発的に英和辞典を活用しながら、300～600語程度の教科書の文章を読んで、概要や要点を捉えることができる。</li> <li>教科書の文章を読んで、文中に未知の語句があっても、前後関係や文脈を考えて、推測しながら読み続けることができる。</li> <li>教科書の文章の単語の発音及び文章のリズムやイントネーションに気を付けて、聞き手に伝わるように明瞭に音読することができる。</li> <li>教科書の文章を、センテンス毎に、適切な速度と音量で音読することができる。</li> <li>教科書の文章を読んで、つながりを示す語句の知識に注意しながら、英語の論理展開を理解す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自発的に英和辞典を活用しながら、600語程度以上の教科書の文章を読んで、概要や要点を捉えることができる。</li> <li>教科書の文章を読んで、文中に未知の語句があっても、論理展開を考えて、推測しながら読み続けることができる。</li> <li>教科書の文章の単語の発音及び文章のリズムやイントネーションに気を付けて、聞き手に的確に伝わるように明瞭に音読することができる。</li> <li>教科書の文章全体を、適切な速度と音量で音読することができる。</li> <li>教科書の文章を読んで、つながりを示す語句の知識に注意しながら、英語の論理展開を理解す</li> </ul>

学習指導要領	スタンダード「基礎」
<p>話すこと</p> <p>ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。</p>	<p>を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の文章を読んで、事実と意見などを区別して内容を理解し、自分なりの意見や感想を日本語や英語で交換することができる。</li> <li>教科書の文章の段落の中で、トピック・センテンスとサポーター・センテンスの関係を理解する。</li> <li>身近な話題（例えばスポーツ、文化など）についての文章を読み取るための語句や、文法事項を理解する。</li> <li>英語を使用している人々の日常生活、風俗習慣など、「読むこと」の言語活動に必要な基本的な文化的背景について理解する。</li> <li>英語で書かれた短い手紙や電子メールのメッセージを読むことができる。</li> <li>1年間に、サイドリーダーを1冊以上読む。</li> </ul> <p>・200～300語程度の教科書の文章の内容を理解した後に、簡単な英語の質問を聞いて、YES/NO又は単語や語句を用いて答えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書で扱った身近な話題や自分の興味、関心があることについて、ワークシートやメモなどを利用して、英語で相手に伝えることができる。</li> <li>ペアやグループで、身近な話題について、学んだことや経験したことに基づき、話し合ったり意見の交換をしたりすることができる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>うまく言えないことがあっても、簡単な表現やジェスチャーなどを用いて、情報や考えを相手に伝えることができる。</li> <li>単語の発音や基本的な文章のリズムやイントネーションに気を付けて、十分な声の大きさと話すことができる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶や身近な場面で必要となる語句や表現、文法事項を身に付けている。</li> </ul>

スタンダード「応用」	スタンダード「発展」
<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の文章を読んで、事実と意見などを区別して内容を理解し、自分なりの意見や感想を英語で交換することができる。</li> <li>教科書の文章の段落の中で、トピック・センテンスとサポーター・センテンスの関係を理解し、各段落の役割と文章全体の流れを理解する。</li> <li>幅広い話題（例えば異文化理解、環境問題など）についての文章を読み取るための語句や、文法事項を理解する。</li> <li>英語を使用している人々の日常生活、風俗習慣など、「読むこと」の言語活動に必要な文化的背景について理解する。</li> <li>英語学習者向けの英字新聞や雑誌、インターネット上の記事を読んで、概要を理解する。</li> <li>1年間に、サイドリーダーを2冊以上読む。</li> </ul> <p>・300～600語程度の教科書の文章の内容を理解した後に、英語の質問を聞いて、文章で答えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書で扱った身近な話題や自分の興味、関心があることについて、既習の語句や表現を活用して、ワークシートやメモなどを利用して、英語で相手に伝えることができる。</li> <li>ペアやグループで、幅広い話題について、学んだことや経験したことに基づき、話し合ったり意見の交換をしたりすることができる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>うまく言えないことがあっても、既習の語句や表現を用いて、情報や考えを相手に伝えることができる。</li> <li>単語の発音に気を付けながら、場面や状況、相手の反応などを踏まえて、リズムやイントネーションを意識して、十分な声の大きさ、適切な速度で話すことができる。</li> <li>日常生活の様々な場面で必要となる語句や表現、文法事項を身に付けている。</li> </ul>	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書及びサイドリーダーなどの文章を読んで、事実と意見などを区別して内容を理解し、自分なりの意見や感想を論理的に英語で交換することができる。</li> <li>教科書の文章の段落の中で、トピック・センテンスとサポーター・センテンスの関係を理解し、各段落の役割と文章全体の流れを理解する。</li> <li>抽象的な内容（例えば言語の多様性、生命倫理など）を含む文章を読み取るための語句や、文法事項を理解する。</li> <li>英語を使用している人々の日常生活、風俗習慣など、「読むこと」の言語活動を深めていくために必要な文化的背景について理解する。</li> <li>英字新聞やインターネットを活用し、必要な情報を読み取ることができる。</li> <li>1年間に、サイドリーダーを3冊以上読む。</li> </ul> <p>・600語程度以上の教科書の文章の内容を理解した後に、英語の質問を聞いて、根拠を示しながら文章で答えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書で扱った内容について、既習の語句や表現を応用して、ワークシートやメモなどを利用して、その概要を英語で相手に伝えることができる。</li> <li>ペアやグループで、幅広い話題について、学んだことや経験したことに基づき、根拠を示しながら話し合ったり意見を交換したりすることができる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>うまく言えないことがあっても、既習の語句や表現を効果的に用いて、情報や考えを相手に伝えることができる。</li> <li>単語の発音に気を付けながら、場面や状況、相手の反応などを踏まえて、適切なリズムやイントネーションを用い、十分な声の大きさ、適切な速度で積極的に話すことができる。</li> <li>話し合いや発表で必要となる語句や表現、文法事項を身に付けている。</li> </ul>

学習指導要領	スタンダード「基礎」
<p>書くこと</p> <p>エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あらかじめ準備した絵や写真を使って、話し合ったり意見の交換をしたりすることができる。</li> <li>・事実と意見などを区別して、話すことができる。</li> <li>・英語を使用している人々の日常生活、風俗習慣など、「話すこと」の言語活動に必要な基本的な文化的背景について理解する。</li> <li>・既習の語句や表現、文法事項を活用して、間違うことを恐れずに、学んだことや経験したことに基づき、身近な話題について 20 語程度の文章を書くことができる。</li> <li>・教科書の文章について、ワークシートなどを用いて要約文を完成させることができる。</li> <li>・教科書の文章や、聞いたり読んだりした内容について、20 語程度で感想や意見を書くことができる。</li> <li>・教科書の文章のキーワードやトピック・センテンスを書き出すことができる。</li> <li>・手紙や電子メールの書き方などの基本的な知識を身に付け、自分の意思を伝えることができる。</li> <li>・事実と意見などを区別して、基礎的な表現を用いて書くことができる。</li> <li>・自分で書いた文章を読み直し、語句や文法などの誤りを正して、読み手に分かりやすい文章を書くことができる。</li> <li>・うまく表現できないことがあっても、平易な語句や表現を用いて書くことができる。</li> <li>・必要に応じて英和辞書などを活用して書く。</li> <li>・英語を使用している人々の日常生活、風俗習慣など、「書くこと」の言語活動に必要な基本的な文化的背景について理解する。</li> </ul>

スタンダード「応用」	スタンダード「発展」
<ul style="list-style-type: none"> <li>・図やグラフなどの資料を使って、話し合ったり意見の交換をしたりすることができる。</li> <li>・事実と意見などを区別して、既習の表現を活用して話すことができる。</li> <li>・英語を使用している人々の日常生活、風俗習慣など、「話すこと」の言語活動に必要な文化的背景について理解する。</li> <li>・既習の語句や表現、文法事項を活用して、間違うことを恐れずに、学んだことや経験したことに基づき、幅広い話題について 40 語程度の文章を書くことができる。</li> <li>・教科書の文章について、パートごとに、2～3 文程度の要約文を書くことができる。</li> <li>・教科書の文章や、聞いたり読んだりした内容について、40 語程度で感想や意見を書くことができる。</li> <li>・トピック・センテンスやサポーターティング・センテンスの構成を考え、つながりを示す語句を適切に用いながら、文章を書くことができる。</li> <li>・手紙や電子メールの書き方などの知識を身に付け、お互いに意思を伝え合うことができる。</li> <li>・事実と意見などを区別して、既習の表現を用いて書くことができる。</li> <li>・自分で書いた文章を読み直し、表現の曖昧さをなくしたり、語句や文法などの誤りを正したりして、読み手に分かりやすい文章を書くことができる。</li> <li>・うまく表現できないことがあっても、既習の語句や表現を用いて書くことができる。</li> <li>・必要に応じて英和辞書などを活用して書く。</li> <li>・英語を使用している人々の日常生活、風俗習慣など、「書くこと」の言語活動に必要な文化的背景について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞記事やニュースなどの情報に基づき、話し合ったり意見の交換をしたりすることができる。</li> <li>・事実と意見などを区別して、既習の表現を効果的に用いて論理的に話すことができる。</li> <li>・英語を使用している人々の日常生活、風俗習慣など、「話すこと」の言語活動を深めていくために必要な文化的背景について理解する。</li> <li>・既習の語句や表現、文法事項を活用して、間違うことを恐れずに、学んだことや経験したことに基づき、幅広い話題について 80 語程度の文章を書くことができる。</li> <li>・教科書の文章について、パートごとに、5～6 文程度の要約文を書くことができる。</li> <li>・教科書の文章や、聞いたり読んだりした内容について、80 語程度で感想や意見を書くことができる。</li> <li>・トピック・センテンスやサポーターティング・センテンスの構成を考え、つながりを示す語句を適切に用いながら、論理の展開が明確な文章を書くことができる。</li> <li>・手紙や電子メールの書き方などの知識を身に付け、意見交換したり、話をまとめたりすることができる。</li> <li>・事実と意見などを区別して、既習の表現を適切に用いて論理的に書くことができる。</li> <li>・自分で書いた文章を読み直し、表現の曖昧さをなくしたり、語句や文法などの誤りを正したりして、論点が明確で、読み手に分かりやすい文章を書くことができる。</li> <li>・うまく表現できないことがあっても、既習の語句や表現を効果的に用いて書くことができる。</li> <li>・必要に応じて英和辞書などを活用して書く。</li> <li>・英語を使用している人々の日常生活、風俗習慣など、「書くこと」の言語活動を深めていくために必要な文化的背景について理解する。</li> </ul>